

17 pinch-off により中心静脈カテーテルが離断され右肺動脈内に嵌入した再発大腸癌の1例

関根 和彦・長谷川 潤・萬羽 尚子
寺島 哲郎・島影 尚弘・内田 克之
岡村 直孝・田島 健三

長岡赤十字病院外科

症例は56歳、男性。S状結腸癌術後のリンパ節再発に対し右鎖骨下静脈から刺入された埋め込み型中心静脈カテーテルを用いてFOLFOX4レジメンにて化学療法が施行されていた。薬剤投与前の生理食塩水が滴下不良のためフラッシュしたところ右鎖骨下の皮膚が膨隆し、カテーテルの断裂が疑われ局所麻酔下にカテーテルを抜去した。カテーテルが短いと判断されたと判断し胸部レントゲン、CT施行したところカテーテル先端が右肺動脈内に嵌入していた。血管造影下にスネアカテーテルを用いて回収に成功した。

鎖骨と第一肋骨の間で挟まれること (pinch-off) が原因と考えられた。右鎖骨下静脈から中心静脈カテーテルを留置した場合 pinch-off によるカテーテル離断はまれながら起こりうる合併症である。中心静脈カテーテル留置による化学療法が増加しており注意を要すると考えられるため若干の文献的考察を加えて報告する。

18 多発肺転移をきたした直腸 sm 癌の1例

角南 栄二・黒崎 功*・畠山 勝義*
白根健生病院外科
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科分野*

症例は51才、男性。

【既往歴】2001 (H13) 年より他院呼吸器内科にて右肺腫瘍 S5 のため経過観察中。

【現病歴】当院内科にて下部直腸に 3.5cm 大の O-II a+II c 型高分化腺癌を指摘され、2006 年 8 月上旬当科にて D2 郭清を伴う低位前方切除術を施行した。

【病理組織所見】sm2 adenoca. (tub1, tub2) ly1 vo pm0 dm0 n (-)。

【経過】術後4ヶ月の同12月他院胸部CTにてS5右肺腫瘍の他に右S2に一個10mm大の肺腫瘍を認め、2007 (H19) 7月同院胸部外科にて手術を施行。腫瘍はS5, S2の他にS9に計3個腫瘍を認め部分切除術を施行。病理組織診断ではS5は原発性肺癌でS2とS9は腺癌の転移であった。現在化学療法を施行中である。

【まとめ】遠隔転移をきたした直腸 sm 癌の稀な症例を経験したので報告する。

19 当科における Avastin の使用状況

岡村 拓磨・飯合 恒夫・伏木 麻恵
亀山 仁史・須田 和敬・丸山 聡
谷 達夫・畠山 勝義

新潟大学大学院消化器・一般外科学分野

【目的】当科における Avastin の使用状況について調査を行い、その問題点と今後の課題を検討する。

【対象と方法】2007年9月から2008年4月の間に当科で Avastin を使用した5例を対象とした。レジメン内容、施行回数、全身状態 (PS)、有害事象、効果などについて検討した。尚、有害事象については CTCAE ver3.0、PS は ECOG の criteria に準じて評価を行った。

【結果】対象症例の平均年齢は65才 (57-76) で、男性4例、女性1例であった。再発例4例、切除不能例1例であった。Avastin の平均施行回数は7.4回 (5-11) で、観察中央期間は84日間 (63-224) であった。導入時のPSは全例が0であった。導入時期については1st line として2例、2nd line として1例、3rd line としての使用が2例であった。投与量は5 mg/kg が4例、10mg/kg が1例であった。再発例の4例には前治療としてUFT, UFT/LV 錠, 5FU/1-LV が行われていた。Avastin 使用前の化学療法としてはIRIS, FOLFOX6 単独, FOLFIRI 単独であった。投与方法はFOLFOX6 との併用が4例、FOLFIRI との併用が1例であった。有害事象としては grade 3 の高血圧、血小板低下が1例、grade 2 の全身倦怠、白血球減少が1例でみられた。他 Grade 1 鼻出血